

宇和島 ART プロジェクト第3回総会

開催日時

令和8年2月17日(火) 13:30~15:00

開催場所

宇和島市役所2階大会議室

出席者

(委員)

末光委員・若宮委員・下口委員・三好委員・山口委員・矢野委員・井上委員・水野委員・窪委員(代理:大谷氏)・立川委員・田中委員・山崎委員・大谷委員

(事務局)

岡原市長

中川総務部長

市長公室 酒井室長・竹葉係長・中村主任

欠席者

利根委員・井上委員・三原委員・奥谷委員・清家委員

議事(報告)

- 1 令和7年度事業実績
- 2 令和7年度収支決算(見込)
- 3 その他

会議経過

- 1 開会
宇和島 ART プロジェクト委員長挨拶

- 2 議事(報告)

- (1) 令和7年度事業実績
- (2) 令和7年度収支決算(見込)

令和7年度事業実績及び収支決算(見込)について、報告説明を行った。

[質疑応答・意見]

委員: 来場者数の認識は、どこを通過した人のことか。例えば、宇和島城の人と駅前の人を合算したのか。

事務局: 別添資料22ページをご覧ください。どこで調査をしたのかというところになるが、宇和島城、商店街、天赦公園、各企画プログラムに参加していただいた方を集計し、合計36,570人となっている。

委員: こういったアートイベントは自分も初めてで、1回目にも関わらず、著名な方を呼び、大変だったのではと思っている。積み重ねていき、取り組んでいる地域はかなりあるが、下積みがありません中されたの

は宇和島っぽい。それがよいか悪いかはさておき、取り組んだことに関しては評価をしたい。商店街を見ると、やはり歩いている方は多かったと思う。商店街には作品が飾ってあり、終わると、なくなるんだという寂しい感じはした。そのため、あのような施策があるとまた賑わっていくと思う。わざわざそこを歩いたという方も間違いなくおり、けてマイナスではなかった。一方で宇和島城の展示に関しては、全くアートに興味のない方や、現存 12 天守の宇和島城天守を見たい方もいるため、展示の仕方は賛否両論あった。なかなか分かりにくいアート作品が展示されており、「写真」を皆さんイメージしてしまったように思う。老若男女から厳しい意見をいただく場面も多くあった。今しか見れないというところで、ご了承くださいと案内はしたけれども、今後は今回のさまざまな意見を踏まえて、お城を生かしていくようにしてもらったらよいのではないかと。色々な意見があると思うが、100%満足することはないと思っており、2回目以降は角度を変えて取り組んでいただければ。都会や、色々なところから見たことない若者が城前を歩いていったのは事実。そういった方に一度この街を訪れてもらうのは、何かのきっかけになるかもしれないし、アートの祭典というだけではくくれないようなものに結びついているものも正直なところ。結果は数字でしか見えないかもしれないが、見えない部分も多くあるため、一側面だけでなく多方面から捉え、次に繋げていただきたい。一度で終わってしまうのはもったいない。より多くの市民の参加や、さまざまな人を巻き込むなど、皆で実施し、何気ない生活に溶け込んでいく地域になれば素晴らしい。

委員：新しい取り組みであり、見えない部分もあった中でよかったのではないかとと思う部分も多くある。KPI として、このプロジェクトは成功だったもしくは十分だったという数値の目標と目標に対する結果はどうだったのか。また、外からさまざまな方に来ていただけるプロジェクトだったので、例えば JR の乗車率はどのくらい増えたのか。また、外から来た方が誰かに勧めたいと思う数値が低かったのは、例えば JR と協力し、JR の中をアートで彩るなど、その道中にわくわく感を持てる仕掛けができたのではないかと。JR も地域創生に対して興味を持っている。そういったところとの連携が、もし今回あったならば教えて欲しい。今後も何か予定があれば教えて欲しい。

事務局：目標に対する結果と評価については、「宇和島 ART プロジェクト事業の今後について」という資料をご覧ください。「UWAJIMA SIGHTS 2025 の検証と課題」というところがあるが、計画で来場者としては 30,000 人、結果としては 36,570 人。観光消費額としては、2.1 億円に対し、結果は 1.97 億円。それから子育て世代がターゲットだが、先ほど説明したとおり、40 代以下の来場者が約 50%。結果としてあがっている。上段に経済波及効果についても掲載しているが、経済効果としては 2.51 億円だった。続いて JR との連携については、乗車率は調べられていないが、旅の道中で楽しめる仕掛けも必要だったと考え、今後検討を重ねて参りたい。

委員：検証の結果、おおむね目標としていた数値は達成できているという評

価か。

- 事務局：達成できている部分もあれば、目標に届かなかった部分も正直ある。
- 委員：KPI について、その数値を求めていくことは大事だと認識している。KPI には、数値とは異なる達成しなくてはならないものもある。そういう部分も含めて開示していただけたら、市民はどう動けば貢献できるか考えられる。大きな目標だけを立てられると、どんなことが自分たちにできるのか想像がつきにくい。もう少し細かな数値や、細やかな行動目標が落とし込まれたプランがあると、市民がどう関わり合いながら動いたらよいのか想像がつきやすく、よりプロジェクトも盛り上がる。そういうところまで含めて一緒に考えたい。
- 委員：乗車率や、地域に人が増えるような取り組みに今後も携わっていきたい。アンケート調査結果に基づく考察において、まちの賑わい創出に効果があった反面、宣伝不足とされているが、駅や車内への掲示などで協力し、賑わいづくりに取り組んで参りたい。
- 委員：市民に対して何をやっているのか、周知効果が出ていなかったのは残念。現場で毎日見ている者としては、頭が下がるほど担当者は一生懸命していた。この企画が決まってから、準備が始まり終わるまで、商店街は本当にありがたいぐらい賑わっていた。それを説明する人間がなかなか商店街にいないのが、商店街としては反省点。商店街にあればのものが展示・撤去される過程を全部見ている人間としては、本当に素晴らしい事業だったと感謝している。経済効果がどれぐらいの数字か曖昧だったが、今回の数字を見て、納得できるぐらいの数字ではないかと思っている。
- 委員：写真・アートを通じて、宇和島の新たな魅力を発信する試みとして話題性を想像でき、地域資源を新たな視点で提供できた意義のあるイベントだった。反面、委員の満足度が50%、NPSが-25%で組織内の評価が著しく低いことから、構造上の問題があるのではないかと。また、滞在型の経済波及効果が低調だったため、日帰りのイベントという印象が強かったのではないかと。今後滞在型のイベントを強くしていければ。
- 委員：観光について調べていた際に、宇和島の商店街がシャッターで閉まっており残念な気持ちになったが、商店街で見つけたステンドグラスアートから宇和島を感じられ、来てよかったという口コミを見た。人がいなくても商店街にアートがあることで、来てくれた方へのおもてなしができるんだと感じた。そのため、人が減っていく宇和島でもできる来てくれた方へのおもてなしという面では、貴重な取り組みだったのではないかと感じている。さらに導線や繋がりがあれば、まち全体が美術館に感じられたのでは。また、順路を掲示することで物語性のある展示ができたのではないかと。
- 委員：遠隔部の津島や吉田はどうか分からず、中心部が盛り上がっているようで、本日委員の感触を聞いて成功しているのかなという印象。滅多に行かない商店街や宇和島城にも作品を見に足を運んだ後、中澤保人さんと中村和孝さんのトークイベントにも参加したが、中村さんの作品を展示すれば、よりよいイベントになったのではないかと。
- 委員：市長公室の熱はすごく感じたが、その他の市職員はどうだったのか。

どこかの組織が力を入れるのは大事だが、一人一人に普及するためにも市民への認知を強くする必要がある。また、クリエイターは著名な方なのかもしれないが、よく分からない。もっと凄さを打ち出して欲しい。高尚すぎると近寄りがたいため、もっと POP にしたほうがよい。

委員：心の痛い意見ばかり聞いてきたが、アンケート結果を見て刺さる人には刺さるよいイベントだと思った。作品があった際は商店街に人が歩いている印象もあり、なくなると寂しくなった。アートが生活の中にあり、ふとした瞬間に考えさせられる時間になった。また、どこに何があるのか分かりにくく、SNS や HP の情報が探りにくかった。自身の X や Facebook にアートフェスティバルがあまり出てこず、発信を頑張れたらよかった。アーティストを取材したいが、アーティストが高尚で近づけさせてもらえなかったため、距離が近づければ、我々ももっと PR できた。芸術家は確かに気難しいのかもしれないが、市民と一緒に楽しんでくれる人がいればよかった。

委員：広報活動について協力できる部分は行ったが、アンケート調査にボランティアで参加した際に市民への周知不足を感じた。「PARK SIDE GALLERY」で天赦公園に写真を展示しているのはよいことだったが、作品のテーマや撮影者を公表すれば、撮影者の関係人口が増えたのでは。せっかく市民参加型ができていたのもったいない。

委員：観光誘客のイベントというだけで実施されたのでは無いと思う。アートに関する取り組みは即効性をすぐに出すのが難しく、抽象的に見ていく必要がある。瀬戸内国際芸術祭が始まった頃に、ごみの島の視察などをしたが、何がすごいのかなというところからだった。しかしその後続けていく中で、世界に誇るコンテンツに育ってきており、今後の取り組みを続けていくのかにかかってくると思う。また県としても先日人口減少の集計をしたところ、2060 年には人口半減という数字が出てきており、さまざまな対策をしているところ。やはりその地域に誇りを持ち、若い人たちに地域に残ってもらえる政策をしていくことも必要になってくる。今回のような取り組みの中で、比較的若い人々の反応が全体に比べてよかったというところで、地域の若い人たちに、地域に誇りを持ってもらい、ずっと住み続けたいと思ってもらえることにも繋がっていくのかなと感じている。アートは国内外の誘客の強い誘因にもなってくると思うので、県では令和 10 年には芸術文化祭もあるため、そこに向けて取り組みを強化していきたいと思ってると思う。

(3) その他

宇和島 ART プロジェクト事業の今後について説明を行った。

〔質疑応答・意見〕

委員：何年事業というのはあるのか。

事務局：具体的にはお示しできないが、この大きな方向性に沿って、具体的な事業を展開していくというイメージ。令和 8 年度の事業計画等は、議会の予算上程前のため説明できないが、4 月もしくは 5 月の初めに説

明させていただこうと思っている。今後は、この総会での意見等も踏まえながら、次の事業展開についても相談しながら実施していきたい。例えば、令和10年度11年度についてこうしていこうという話は、今のところ事務局も具体的に持ち合わせていない。

委員：大目標や、こうしたいというのはあるのか。

委員長：よかったことや悪かったこと、地元の方をもっと取り込むなど、さまざまな課題いただいているため、アートを軸にということは申しあげていとおりであるが、やり方等々についてはしっかり検討していきたい。そういった意味での要素を書いているので確かに分かりづらいかもかもしれないが、その点については今後、具体的にまた説明できればと思っている。

委員：拝見すると、目標にしている内容が移住・観光であったり行政の中でも多岐にわたるもの。市内部での横連携が重要で、それに伴う関係者たちからの意見の吸い上げが構造的、組織的または役目的に重要だと思う。一担当課だけではできない、みんなのプロジェクトという思いで進めなければ難しい。できることは協力する。

委員：奥様が宇和島の方で、道後アートや直島で活躍されている大竹伸郎氏が宇和島に在住しており、宇和島には緞帳がある。宇和島のアートのプロジェクトに一切関わられてないんだらうと思う。アートの的なもので彼に協力していただく施策はないのか。

委員長：緞帳などは就任してから多くの方の力を借り、パフィオに設置した第一歩である。大竹氏が忙しいこともあるが、我々の思いを十分にお伝えできていない。コミュニケーションは取っているため、どのような関わり方ができるのか検討して参りたい。凄い方であるとは重々承知しており、力をお借りしたいと思っている。

3 閉 会